

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K10261

研究課題名(和文)臓器移植希望者(レシピエント)に対する心理社会的評価のためのガイドラインの作成

研究課題名(英文)A guideline for the psychosocial evaluation of the organ transplant candidates

研究代表者

西村 勝治(Nishimura, Katsuji)

東京女子医科大学・医学部・教授

研究者番号：60218188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：臓器移植患者には精神障害が高頻度に出現し、予後(移植臓器の拒絶、廃絶、死亡等)に悪影響を及ぼす。また長期予後を決定するノンアドヒアランスはしばしば心理社会的な問題から生じる。このため移植施行前に行われる心理社会的評価は臓器移植の適応基準の一部となるばかりでなく、移植適応となった患者に対しても適切な心理社会的介入に繋ぐ重要な根拠となる。しかし、わが国には標準的な評価ツールが存在しない。欧米のツールをメンタリティや移植事情の異なるわが国にそのまま転用することもできない。そこで海外と国内の知見を集約し、我が国の事情に即した臓器移植希望者(レシピエント)の心理社会的評価のガイドラインを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって作成された臓器移植希望者(レシピエント)に対する心理社会的評価のためのガイドラインによって、施設を超えて一定のコンセンサスを得た評価を行うことが出る。移植適応基準における心理社会的・精神医学的評価の信頼性を担保できる、予後に悪影響を及ぼす心理社会的な要因を特定し、介入に繋ぐことが出来るため、移植患者の予後の改善およびQOLの向上に寄与できる、脳死・心臓死下臓器提供への国民の理解促進にも寄与できる、等が期待できる点で学術的、社会的意義を有している。

研究成果の概要(英文)：In organ transplant patients, psychiatric disorders frequently occur, which greatly impact their outcomes, e.g., rejection, graft loss, and death. Furthermore, psychosocial issues often result in post-transplant non-adherence, which determines the long-term outcomes. Thus, results from pre-transplant psychosocial evaluation are included in the criteria for organ transplantation. The results are also important evidence for an adequate psychosocial intervention for post-transplant patients. However, no standardized tools for the evaluation in Japan. It is inappropriate to use in Japan, the similar tools developed in Western countries because the mentality and transplant situations in Japan are different from those of these countries. In the present project, we developed a guideline for the psychosocial evaluation for the organ transplant candidates according to Japanese circumstances.

研究分野：リエゾン精神医学

キーワード：臓器移植 レシピエント 心理社会的評価

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

臓器移植患者には精神障害が高頻度に出現し、予後(移植臓器の拒絶、廃絶、死亡等)に悪影響を及ぼす。また長期予後を決するノンアドヒアランスはしばしば心理社会的な問題から生じる。このため移植施行前に行われる心理社会的評価は臓器移植の適応基準の一部となるばかりでなく、移植適応となった患者を適切な心理社会的介入に繋ぐ重要な根拠となる。しかし、わが国には標準的な心理社会的評価ツールが存在しない。北米では臓器移植患者を対象とした術前の心理社会的評価ツールが作成、臨床活用されている。わが国は死体移植希望者の待機期間の長さ、生体腎・肝移植では親族からの生体移植が大半を占めることなど移植事情も異なり、メンタリティも異なるため、海外のツールをそのまま転用することは適切ではない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、海外と国内の知見を集約し、我が国の事情に適した臓器移植希望者(レシピエント)の心理社会的評価のガイドラインを作成することであった。

3. 研究の方法

(1) 海外におけるレシピエントの心理社会的評価の系統的レビュー

移植先進諸外国における臓器移植レシピエント候補者に対する心理社会的評価に関する文献・ガイドラインをドナー種別(生体・死体)、臓器(心臓・腎臓・肝臓)の別を問わず収集した。評価者・評価時期・評価項目・評価方法・予後予測・事後評価について整理し、同時に臓器横断的な共通要素と、臓器特異的要素の有無を整理した。

(2) 国内におけるレシピエントの心理社会的評価の整理と問題点の抽出

国内における現行の心理社会的評価法を整理し、問題の所在を明らかにすることを目的に、国内の主要な移植施設において実施されている心理社会的評価方法と、そこで生じている問題についてフォーカスグループインタビューを実施した。インタビューの内容は、各施設における評価者・評価時期・評価項目・評価方法・評価者が感じている評価上の問題点等である。対象は国内における主だった臓器移植施設においてレシピエントの心理社会的評価に3年以上関与している医療従事者(精神科医、臨床心理士、レシピエント移植コーディネーター、ソーシャルワーカー)である。日本移植学会、日本移植コーディネーター協議会の協力を得て、2018年度末までに、目標施設数を超える心臓移植9施設、腎臓移植14施設、膵臓移植5施設、肝臓移植9施設を対象に実施した。

(3) ガイドラインの策定

上記(1)から(3)をもとに日本総合病院精神医学会臓器不全・移植精神医学委員会でガイドラインを編纂しており、移植経験者、移植医療に携わっていない精神科医、外部識者、日本移植学会からのコメントを得て、刊行は2020年8月の予定である。

4. 研究成果

(1) 海外におけるレシピエントの心理社会的評価の系統的レビュー

海外における先行研究において移植後の予後不良と関連する心理社会的因子として、若年者、ソーシャルサポートの不足、不十分な理解力・意思決定能力、過去のアドヒアランス不良歴、精神障害・パーソナリティ障害の既往、現在症(アルコール・物質使用障害を含む)などが抽出され、評価に組み込まれるべき項目であることが明らかになった。これらはアドヒアランス不良のリスク要因でもあった。

(2) 国内におけるレシピエントの心理社会的評価の整理と問題点の抽出

国内の心理社会的評価は、施設ごとの運用に任されていることが確認された。レシピエント移植コーディネーターは移植希望者全例に関わり、心理社会的評価を担っていたが、メンタルヘルス専門職である精神科医や臨床心理士の関与は、施設によって異なった。精神科医や臨床心理士等が心理社会的評価に全例関わる施設もあれば、レシピエント移植コーディネーターや移植医が心理社会的側面に問題があると考えた例のみが紹介される施設も複数あった。この際の問題例は、精神疾患の現在症や既往歴があること、向精神薬が処方されていること、アルコール使用障害の疑いがあること、などが施設を越えて共通していた。特に評価と移植適応の判断が困難とされていたのは、アドヒアランス不良や理解力に疑問が持たれる例であった。施設ごとに対応が異なるが、心理師による心理検査を用いて移植候補者に関する多面的なアセスメントを行う、具体的な行動目標を立てて実行できるかを確認することで治療意欲とアドヒアランスを評価する等の工夫がなされていた。また、判断が難しい例ほど単回の面接での判断をせず、時間をおいて再評価する、複数の評価者が評価する、多職種によって検討する等の対応がなされていた。また、自施設内多職種や、候補者の通院していた他施設、家族等からの情報収集も行われていた。心理社会的評価に関与している医療者は精神科医も含めて、精神疾患の有無といった横断的な評価ではなく、移植が行われた後も治療に協力し続けられるかといった、前方視的な評価の必要性を認識していた。評価にあたる人材の不足と、評価者の教育と質の担保が課題として挙げられた。これらは日本臨床腎移植移植学会(2019年2月)、日本移植学会(2019年10月)にて報告した。

(3) ガイドラインの作成

研究代表者が主担当となり、日本総合病院精神医学会臓器不全・移植精神医学委員会で「臓器移

植希望者（レシピエント）に対する精神・心理社会的評価のための指針」を作成し、2020年8月に出版予定である。指針は以下の章から構成されている。

【第1章】臓器移植候補者の精神・心理社会的評価の位置づけ：日本における臓器移植の実態、海外の移植先進国と比較した日本の移植医療の特殊性を整理したうえで、臓器移植の適応における精神・心理社会的要因の扱い、精神科医等による精神・心理社会的評価の位置づけを述べる。生体ドナーに対する「第三者」面接との相違点を整理し、本指針の基本方針を提示する。

【第2章】臓器移植候補者の精神・心理社会的評価で重視すべき要素：臓器移植における心理社会的評価の目的と、生体移植および死体移植の一般的な流れにおける心理社会的評価の位置づけを示す。また、移植の経過に影響を与えうる重要な心理社会的要因について概説する。

【第3章】臓器移植における精神疾患の影響とその対応：移植臓器ごとの精神疾患に関する適応外基準を整理し、臓器移植患者における精神疾患の併存とそれが移植経過に与える影響について、海外の報告を中心に概説する。また、移植患者に併存する精神疾患に対する薬物療法および心理社会的介入について示す。

【第4章】臓器移植とアドヒアランス：移植医療で患者に求められるアドヒアランスとして、免疫抑制剤の内服、生活習慣を取り上げる。アドヒアランス不良のリスク因子について概説する。

【第5章】各臓器移植の概要と基本的な留意点：心臓・肝臓・腎臓・膵臓・肺について、それぞれの臓器移植の特殊性とそれに基づく心理社会的な留意点を整理する。

【第6章】心理社会的評価の実際：実際に心理社会的評価のための面接を行う際の構造、面接の進め方、移植チームとの情報共有の在り方など、実践的な内容を提示する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 西村勝治	4. 巻 54
2. 論文標題 臓器移植前後のメンタルサポート：今日的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移植	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11386/jst.54.1_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 押淵英弘, 筒井順子, 西村勝治	4. 巻 54
2. 論文標題 心臓移植前後の心理的支援についての今日的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移植	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11386/jst.54.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 KOBAYASHI Sayaka, KAI Kotaro, OKABE Sachi, TSUTSUI Junko, TSUTSUMI Takahiro, FUCHINOUE Shohei, NISHIMURA Katsuji	4. 巻 60
2. 論文標題 New-onset anorexia nervosa after living kidney transplantation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychosomatics	6. 最初と最後の頁 216-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.psym.2018.05.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 NODA Tsuyoshi, KOBAYASHI Sayaka, SAWAMURA Jitsuki, OSHIBUCHI Hidehiro, NISHIMURA Katsuji	4. 巻 50
2. 論文標題 Withdrawal of the Decision to Donate Kidney by Living Related Donors: A Single-center Study in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transplantation proceedings	6. 最初と最後の頁 3045-3052
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.transproceed.2018.06.031.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村勝治	4. 巻 31
2. 論文標題 身体疾患患者の精神医学的問題 - 循環器疾患を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 281-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村勝治	4. 巻 24
2. 論文標題 サイコネフロロジーとは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 透析ケア	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯部 光章, 市川 肇, 植田 初江, 小野 稔, . . . 西村 勝治, 他	4. 巻 47
2. 論文標題 2016年版 心臓移植に関する提言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本心臓血管外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林清香, 西村勝治	4. 巻 82
2. 論文標題 腎移植後の深刻な心理的問題と精神疾患	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 266-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村勝治	4. 巻 82
2. 論文標題 腎移植における精神疾患の有病率と危険因子(ドナーを含む)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 245-249
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上敦子, 大下隆司, 西村勝治	4. 巻 82
2. 論文標題 小児腎移植患者の心理的な問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 腎と透析	6. 最初と最後の頁 260-265
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桂川修一, 相川厚, 水野雅文, 西村勝治	4. 巻 32
2. 論文標題 腎移植をめぐるリエゾン精神医学 - レシピエントを中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 167-174
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋秀俊, 萩原邦子, 桂川修一, 西村勝治	4. 巻 32
2. 論文標題 一般精神科臨床において移植患者に配慮すべきこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 203-209
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村勝治	4. 巻 32
2. 論文標題 わが国における臓器移植精神医学 - 課題と展望 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 149-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOBAYASHI Sayaka, AKAHO Rie, OMOTO Kazuya, SHIRAKAWA Hiroki, SHIMIZU Tomokazu, ISHIDA Hideki, TANABE Kazunari, NISHIMURA Katsuji	4. 巻 19
2. 論文標題 Post-donation satisfaction in kidney transplantation: a survey of living donors in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Health Services Research	6. 最初と最後の頁 775
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1186/s12913-019-4556-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村 勝治	4. 巻 34
2. 論文標題 サイコネフロジー 今日の課題と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本透析医会雑誌	6. 最初と最後の頁 476-483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ANRAKU Yuta, AKAHO Rie, MATSUI Satoko, SANNOMIYA Akihito, FUCHINOUE Shohei, NISHIMURA Katsuji	4. 巻 13
2. 論文標題 Graft loss following onset of schizophrenia long after liver transplantation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International medical case reports journal	6. 最初と最後の頁 101-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.2147/IMCRJ.S226422	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小林清香, 押淵英弘, 赤穂理絵, 西村勝治
2. 発表標題 移植前のレシピエントの心理社会的評価の実態と課題
3. 学会等名 第52回臨床腎移植学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井聡子, 小林清香, 筒井順子, 押淵英弘, 赤穂理絵, 西村勝治
2. 発表標題 臓器移植レシピエント候補者の心理社会的な移植適応の評価法
3. 学会等名 第52回臨床腎移植学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安楽勇太, 松井聡子, 大野友梨香, 河野敬明, 末木亮嗣, 松井健太郎, 稲田健, 高橋一志, 赤穂理絵, 西村勝治
2. 発表標題 Wilson病に対して肝移植施行後に精神病性障害が発症し退薬により肝不全に至った一例
3. 学会等名 第31回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村勝治
2. 発表標題 移植医療における職種間の連携と協働：「第三者」として生体間移植にかかわる精神科医の立場から
3. 学会等名 第54回日本移植学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村勝治
2. 発表標題 心不全患者における精神心理的苦痛とその対応
3. 学会等名 第31回日本サイコオンコロジー学会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井 聡子, 筒井 順子, 末木 亮嗣, 赤穂 理絵, 西村 勝治
2. 発表標題 臓器移植レシピエント候補者の心理社会的な移植適応の評価法・日本語版の開発
3. 学会等名 第21回日本適応医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井 聡子, 堤 多可弘, 河野 敬明, 稲田 健, 高橋 一志, 西村 勝治
2. 発表標題 生体腎移植後のレシピエントに生じた強迫性障害に対してエスシタロプラムが有用だった一例
3. 学会等名 第39回日本生物学的精神医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村勝治
2. 発表標題 精神疾患を有する人の生体臓器提供をどのように考えるか
3. 学会等名 第112回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅原裕子, 筒井順子, 小林清香, 押淵英弘, 西村勝治
2. 発表標題 リエゾンチーム介入を要した抗うつ薬による胆管消失症候群が疑われた生体肝移植レシピエントの一例
3. 学会等名 第52回日本移植学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上敦子, 大下隆司, 河野美帆, 浅井美紗, 榊原みゆき, 中島由布, 服部元史, 西村勝治
2. 発表標題 小児・思春期腎移植レシピエントにおける移植前の認知機能
3. 学会等名 第29回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林清香, 岡部祥, 筒井順子, 石田英樹, 西村勝治
2. 発表標題 免疫抑制剤の服薬行動に影響する要因の検討
3. 学会等名 第50回日本臨床腎移植学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 NISHIMURA Katsuji, TSUTSUI Junko
2. 発表標題 Multi-disciplinary psychiatric team in Asia-Pacific region
3. 学会等名 The 115th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	菅原 裕子 (Sugawara Hiroko) (90610692)	熊本大学・医学部・助教 (17401)	
研究 分担者	小林 清香 (Kobayashi Sayaka) (40439807)	埼玉医科大学・医学部・講師 (32409)	